

長野県食と農業農村振興審議会長野地区部会 次第

日時:平成 24 年 10 月 4 日(金)13:30～15:30

場所:長野合同庁舎 別館大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 第2期 長野県食と農業農村振興計画（素案）について

(2) 長野地域の発展方向（案）について

(3) 意見交換

(4) 今後のスケジュールについて

4 閉 会

第1章 計画策定の基本的考え方

- 1 策定の趣旨 「長野県食と農業農村振興の県民条例」（議員提案条例、平成18年4月1日施行）の基本理念を踏まえ、食と農業・農村の持続的発展を目指し、方向性を指し示す
- 2 策定年月 平成25年3月（予定）
- 3 計画期間 平成25年度～29年度（5年間）
- 4 進行管理 毎年度、進捗状況について、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表

第2章 食と農業・農村をめぐる情勢

《現状と課題》

- 農業者の減少、構造改革の遅れ、担い手不足
- 農畜産物生産量の減少、輸入農産物の増加
- 景気の低迷、農家所得の低下
- 農村コミュニティ機能の低下、耕作放棄地の増加、野生鳥獣被害の発生、農業水利施設等の老朽化

《社会情勢の変化》

- 人口減少社会の到来
- EPA、FTA交渉など国際化の進展
- 情報・流通の多様化と価値観の変化
- 国内外の食品への安全・安心意識の高まり
- 雇用・環境保全など農業・農村の役割の変化
- 自然災害・大規模災害の発生懸念

第3章 食と農業・農村をめざす将来像

本県の豊かな自然環境の享受と活用、本来あるべき食の姿の実現、消費者ニーズの変化などを的確かつ迅速に捉えた様々な課題の克服と新たなステージへ挑戦する機会の創出により、農業者が夢に向かって農業に取り組み、多くの人々が本県の農村で暮らし続けたいと感じる農業・農村をめざします

第4章 食と農業・農村の振興に関する施策の展開方向

基本目標：夢をかなえ人を結ぶ信州の農業・農村（仮称）

基本方向1：夢に挑戦する農業

《施策の展開1：夢ある農業を実践する経営体の育成》

- 高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成
- 地域農業を支える活力ある組織経営体の育成
- 新規就農者の育成
- 企業の農業参入等の促進

《施策の展開2：自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産》

- 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興
- 自然の力を活かした環境農業の推進
- 農畜産物の安全性確保
- 信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術

《施策の展開3：信州ブランドの確立とマーケットの創出》

- 信州農畜産物のブランドの確立
- マーケット需要の把握による戦略的な生産・販路拡大と輸出促進
- 6次産業化の推進

【農業生産構造の目標等】 経営体と農地利用、農産物産出額等の目標

基本方向2：皆が暮らしたい農村

《施策の展開1：農村コミュニティの維持・構築》

- 中山間地域等における農村コミュニティの維持・強化
- 都市近郊地域等における農村コミュニティの強化

《施策の展開2：地産地消と食に対する理解・活動の促進》

- 地産地消の推進による信州農畜産物への共感
- 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿

《施策の展開3：美しい農村の維持・活用》

- 農山村の多面的機能の維持と環境保全
- 農村資源の利活用の推進
- 安全で快適な農村環境の確保

第5章 重点的に取り組む事項

プロジェクト1：農業で夢をかなえるプロジェクト

新規就農者を誘致するための、市町村、JA等との連携による情報発信と新たな就農支援システムづくり

プロジェクト2：環境にやさしい農業推進プロジェクト

環境にやさしい農産物の生産を拡大するための、環境にやさしい認証制度の面的取組の拡大を推進

プロジェクト3：新たな産地を築く園芸品目振興プロジェクト

消費者・実需者ニーズの高い品目・品種の早期拡大と技術支援による産地化を推進

プロジェクト4：おいしい信州ふード（風土）認知度向上プロジェクト

『「おいしい信州ふード（風土）」が食べられるお店』の拡大と官民協働の取組を推進

プロジェクト5：ふるさと農村元気プロジェクト

重点支援地区の設置による中山間地域等のコミュニティ再生と他地域への波及を推進

プロジェクト6：小水力発電導入促進プロジェクト

市町村、関係団体と連携し、小水力発電の有効性の周知とモデル施設での検証を通じ、取組拡大を推進

第6章 地域別の発展方向

地域の食と農業・農村の発展を目指し、県下10地域ごとの地域の特性を踏まえた、将来目標、具体的な戦略を明らかにする地域農業の活性化計画

- 【地域別の発展方向】
- 1 地域の概要
 - 2 めざす将来ビジョン
 - 3 重点戦略

食・消費者

基本方向 1 夢に挑戦する農業

施策の展開

新たな視点・加速する視点

施策の展開 1 夢ある農業を實踐する経営体の育成

1 高い技術と経営力を持つ企業的農業経営体の育成

- 企業的農業経営体をめざす農業者の確保と資質向上及び法人化の促進
- 農地の利用集積による規模拡大の促進
- 経営基盤の強化と新たな経営展開の促進
- 円滑な経営継承等の促進 等

2 地域農業を支える活力ある組織経営体の育成

- 地域農業を支える集落営農組織等の育成
- 集落営農組織の経営改善と法人化の促進
- 関係機関・団体が連携した支援体制の充実

3 新規就農者の育成

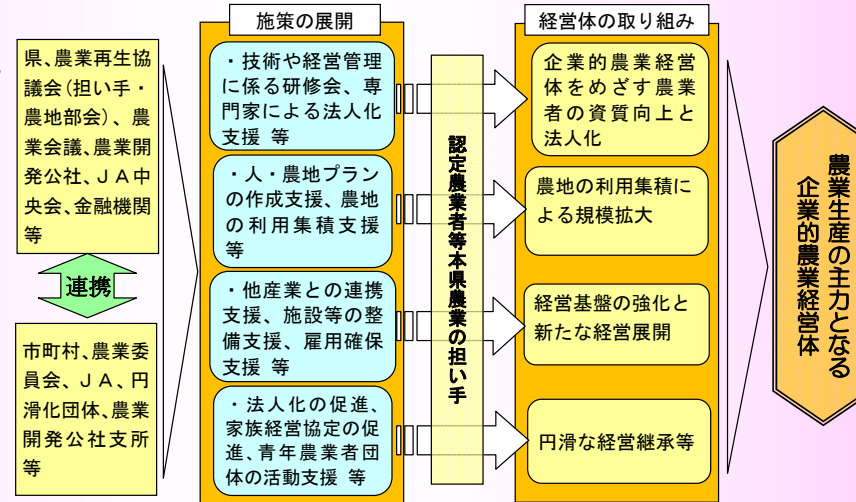
- 新規就農者の誘致
- 研修体制等の充実
- 農業後継者等の円滑な経営継承の支援

4 企業の農業参入等の促進

- 地域の実情を踏まえた企業の農業参入促進

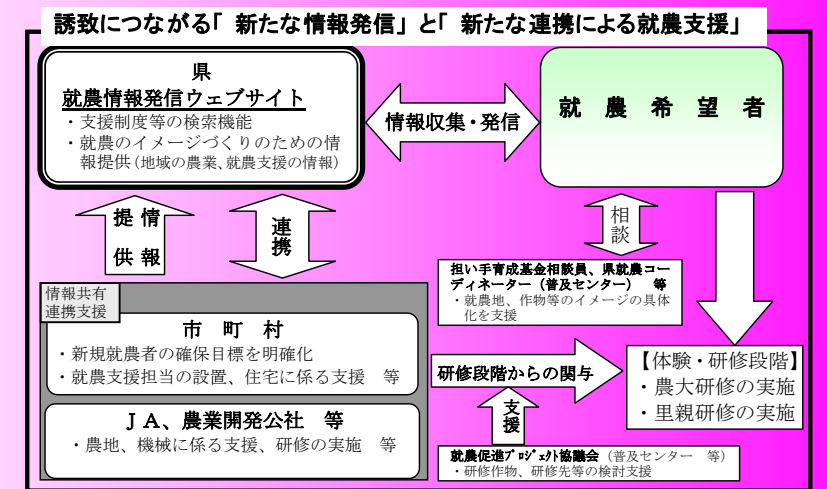
企業的農業経営体の育成

- 認定農業者等の経営管理技術のスキルアップを支援
- 「人・農地プラン」等による農地の利用集積を支援
- 食品関連事業者とのつながり強化を支援
- 経営の法人化、家族経営協定の推進



新規就農者の誘致

- 市町村、JA等と連携し、新たな就農支援システムの構築により都市部等から若者を誘致
- 就農情報を一元的に発信
- 農業大学校、里親の元で新規就農者の生産技術等の習得
- 農業後継者の技術力・経営力の向上を支援



施策の展開 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

1 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興

- 米穀類、園芸作物・水産、畜産

2 自然の力を活かした環境農業の推進

- 高い環境意識を持った農業者の育成
- 環境にやさしい農業の取組拡大
- 地球温暖化防止に貢献する取組の推進 ○資源循環の推進
- 環境農業に取り組む生産者の努力と生産された農産物の情報発信

3 農畜産物の安全性確保

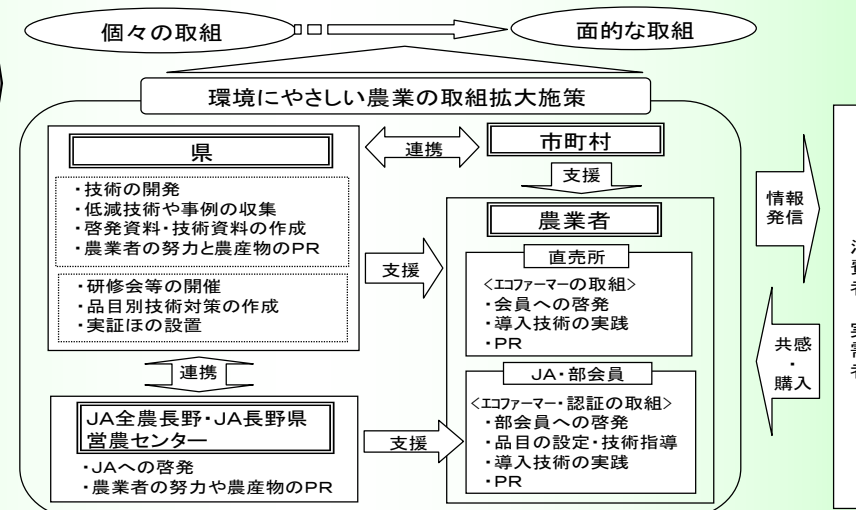
- 放射性物質検査の実施と情報発信による安全・安心の確保
- GAPの推進による農産物・労働の安全性確保
- 農場HACCPの推進による生産物の安全性確保
- 農薬の適正使用の推進
- 動物用医薬品・家畜飼料の適正使用の推進
- 人獣共通感染症の発生防止 ○食品表示の適正化の推進

4 信州農畜産物の生産を支える農地・水、技術

- 農地・水、技術開発と普及

環境にやさしい農業の推進

- 農業者の環境に対する高い意識を醸成
- 土壌物理性、化学性、生物性の改善を推進
- エコファーマー・環境にやさしい農業の面的拡大を支援
- 生産者の努力を情報発信



生産を支える農地・水・技術

- 農地・水—
- 担い手への農地集積を促進するための、区画整理などの基盤整備を実施
- 園芸作物振興のための畑地かんがい施設の更新
- 農業水利施設の維持・補修と長寿命化
- 施設管理者の育成・支援
- 遊休農地の再生活用のための支援チームによる巡回指導の実施
- 棚田オーナー制度を活用する消費者や農業参入企業の掘り起こし
- 技術開発・普及—
- オリジナル品種の育成と知的財産の保護・活用
- 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発
- 環境農業生産技術の開発
- 地球温暖化対策技術の開発
- 産学官連携による革新的な技術の開発
- 農業者との協働による効率的・効果的技術の普及

[作目毎の方向性]

米穀類	<ol style="list-style-type: none"> 1 米穀類経営の規模拡大と安定化支援 <ul style="list-style-type: none"> ・担い手への農地の利用集積 ・低コスト生産 2 消費者に選ばれる特徴ある高品質米の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい米づくり ・県オリジナル品種「風さやか」の拡大 3 実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの生産拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・加工適性の高い小麦「ハナマンテン」、「ゆめかおり」、大豆「すずほまれ」の拡大、そば「桔梗8号」の導入 4 優良種子の安定供給 <ul style="list-style-type: none"> ・原種センターと連携した種子の安定供給 	花き	<ol style="list-style-type: none"> 1 全国シェア上位の品目が連なる花き生産体制の維持・拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・カーネーション・トルコギキョウの秋切り作型の拡大、ダリア・ランキユス等の拡大 2 多様な実需者のニーズに応える生産体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・キク・リンドウ等の物日需要対応、品質・日持ちの向上 3 花き経営体の競争力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代への技術継承、花き生産者のネットワーク化
果樹	<ol style="list-style-type: none"> 1 県オリジナル品種等による特色ある果樹産地の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ・りんご3兄弟、ぶどう「ナガノパープル」、なし「サザンスイート」等の導入・産地化 2 収益性が高く省力的な果樹栽培の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・りんご新しい化栽培の拡大 ・ぶどう平行整枝短梢せん定栽培の導入 3 うまいくだものを安定生産できる産地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・基幹品種のレベルアップ ・出荷の長期化 4 果樹経営基盤の安定 <ul style="list-style-type: none"> ・園地継承組織の育成 ・他産業との連携と6次産業化の推進 	きのこ	<ol style="list-style-type: none"> 1 きのこと農家の経営安定対策の推進 2 収益性の高いきのこ産地の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・高温域培養適正品種「長菌17号」の導入、液体種菌・LED照明の利用 3 安全・安心・環境対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・GAPの導入、使用済み培地のたい肥化と農地還元 4 消費者視点での需要拡大対策の推進
野菜	<ol style="list-style-type: none"> 1 信頼され責任ある野菜産地の持続的発展 <ul style="list-style-type: none"> ・需要に応じた計画生産 ・経営規模の拡大と経営力の向上 ・新たな野菜生産の担い手の育成 2 実需者の多様なニーズ、流通の変化に対応できる新たな産地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・契約取引等の拡大 ・果菜類、根菜類の生産拡大 ・加工業務用野菜等の産地づくり 3 「伝統」「健康」「こだわり」等に着目した新たな需要の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・消費形態や消費年齢層の変化を捉えた新たな需要が期待できる生産・流通 ・地産地消の生産者グループ育成 ・薬草やわさびの生産 	水産	<ol style="list-style-type: none"> 1 高品質ニーズに応える信州サーモン等の安定生産 <ul style="list-style-type: none"> ・信州サーモンの生産拡大と品質向上、三倍体仔の開発・普及 2 遊漁者に魅力ある漁場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・冬期ニジマス釣り場の設置、外来魚・カワ対策の推進、観光業との連携
		畜産	<ol style="list-style-type: none"> 1 消費者の求めるこだわりのある畜産物の生産と供給 <ul style="list-style-type: none"> ・信州プレミアム牛肉の拡大と品質向上、信州黄金シャモの生産拡大、受精卵の活用 2 地域資源等を活用した生産基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・食品循環資源利用飼料の活用、遊休畜舎等未利用資源の利用 3 家畜伝染病等予防のための防疫体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥インフルエンザ・口蹄疫等の侵入防止、家畜伝染病発生時の初動体制の強化 4 地域とのつながりを持ち、信州の自然・環境に適した畜産の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・臭気対策等の実施、畜産農家と耕種農家との連携強化

施策の展開

新たな視点・加速する視点

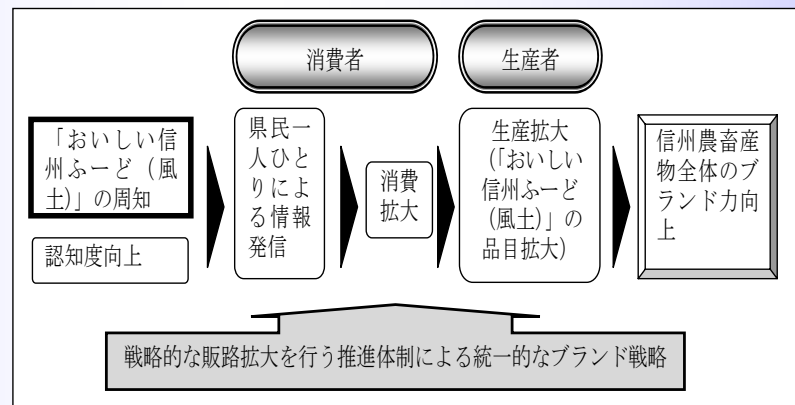
施策の展開3

信州ブランドの確立とマーケティングの創出

- 1 信州農畜産物のブランドの確立
 - 「おいしい信州ふーど(風土)」の周知と参加促進
 - 県認定制度の適正な運営と推進
 - 全国シェアが高い品目等のブランド化の推進
- 2 マーケット需要の把握による戦略的な生産・販路拡大と輸出促進
 - マーケット分析とノウハウの蓄積に基づく販路拡大
 - 多様なマーケットニーズに対応できる新たな産地機能の強化
 - 本県の強みを発揮できる取引や取組の継続・強化
 - 意欲ある事業者による農産物等の輸出促進と海外での信州ファンづくり
- 3 6次産業化の推進
 - 6次産業化をめざす人材の積極的な発掘・育成
 - 推進体制の整備と円滑な事業拡大への支援
 - 6次産業化の基盤となる地域産業の裾野の拡大

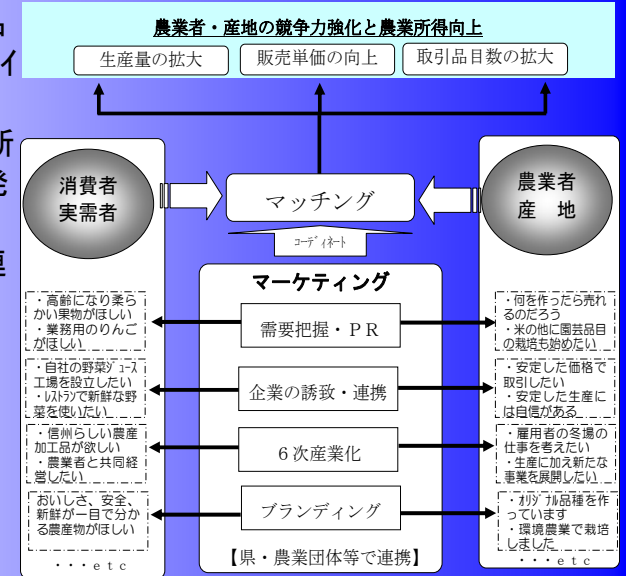
「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度向上

- 「おいしい信州ふーど(風土)」大使が強力に情報発信
- トップセールス、海外フェアの実施
- 観光業との連携した旅行商品等の造成
- 県認定制度の情報発信
- 「おいしい信州ふーど(風土)」需要の生産現場へのフィードバック



マーケティング等による農畜産物生産の拡大

- 実需者情報の収集と分析を実施
- 実需者等のニーズを生産現場へのフィードバック
- ソーシャルネットワークシステム等による農畜産物PR活動を実施
- 農業者と食品事業者等のタイアップを支援
- 農業者等の新たな商品開発等を支援
- 他産業との連携を支援



[農業生産構造の目標等]

【農業生産構造の目標】

区分	平成22年(基準年)	平成29年(目標年)
農業経営体に占める担い手の比率	19.6%	26.5%
担い手の農地利用率	42%	51%
認定農業者等の数	8,008経営体	9,000経営体

【食と農業・農村の経済努力目標】

区分	平成22年(基準年)	平成29年(目標年)
農業農村総生産額	2,908億円	3,050億円
農産物産出額	2,738億円	2,800億円
農業関連産出額	170億円	250億円

【参考：農産物産出額努力目標の内訳】

区分	平成22年基準(2010年)				平成29年目標(2017年)				H29/H22(%)				
	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積	単収	生産量	産出額	
米穀類	42,340	531	224,770	446	42,850	535	229,233	494	101	101	102	111	
果樹	15,400	1,430	220,200	485	14,920	1,636	244,100	490	97	114	111	101	
野菜	24,897	2,470	615,007	801	23,600	2,669	630,000	790	95	108	102	99	
花き	749	(本・鉢数)	199,000千本 21,010千鉢	161	722	(本・鉢数)	185,905千本 17,577千鉢	160	96	-	93 84	100	
きのこ	-	-	153,251	495	-	-	167,762	490	-	-	109	99	
その他	-	-	-	63	-	-	-	72	-	-	-	114	
区分	飼養頭数(頭・千羽)			生産量(t)	産出額(億円)	飼養頭数(頭・千羽)			生産量(t)	産出額(億円)	飼養頭数	生産量	産出額
畜産	134,100頭 1,710千羽		154,808	288	123,600頭 1,375千羽		150,913	305	92 80	97	105.9		
農産物産出額計	2,738				2,800				102.3				

基本方向2 皆が暮らしたい農村

施策の展開

施策の展開1

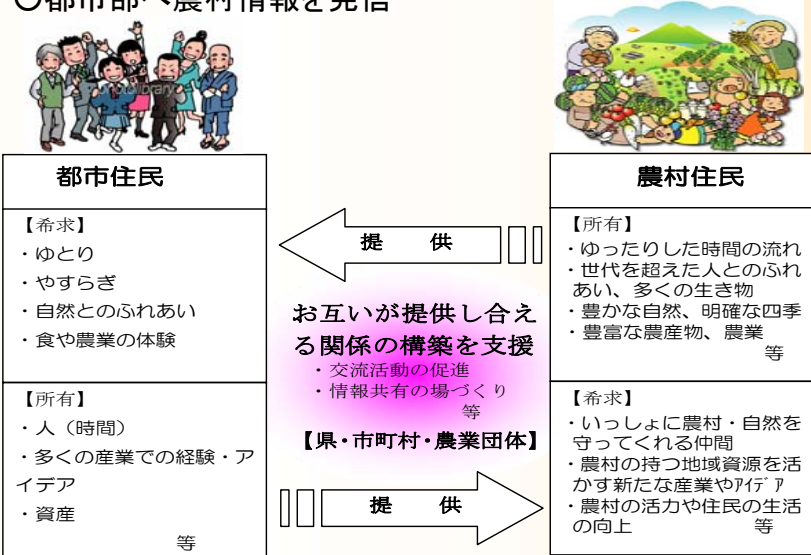
農村コミュニティの維持・構築

- 1 中山間地域等における農村コミュニティの維持・強化
 - 農業生産活動の継続
 - ふれあい・やすらぎの場づくり
 - コミュニティ活動への都市住民等の参加促進
- 2 都市近郊地域等における農村コミュニティの強化
 - 食と農を介した農村コミュニティの強化
 - ふれあいの場づくり
 - 地域ぐるみで取り組む共同活動の推進

新たな視点・加速する視点

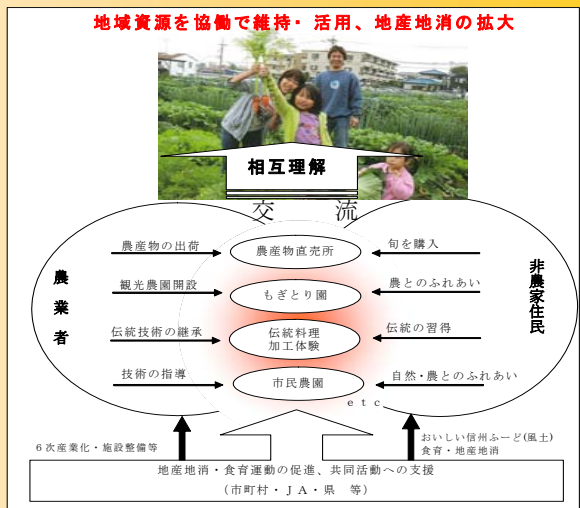
人と農の交わりが支える中山間集落

- 営農の継続による地域資源の保全を支援
- 山菜等特色ある農産物や加工品の生産を支援
- 農産物直売所、農家レストラン等の開設を支援
- 都市部へ農村情報を発信



食と農を軸にした相互理解

- 農産物直売所、市民農園等の整備を支援
- 農作業体験・加工・料理体験など農や食を介したふれあいの場づくりを支援
- 地域ぐるみで行う草刈り、水路整備等の活動を支援



施策の展開2

地産地消と食に対する理解・活動の促進

- 1 地産地消の推進による信州農畜産物への共感
 - 自然豊かな環境で生産される安全で良質な信州農畜産物の情報発信
 - 生産者と消費者との顔が見える関係の推進
 - 学校給食等における信州農畜産物の利用促進
 - 農畜産物生産を通じた環境保全・エコ活動等の促進
- 2 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿
 - 学校、保育所等における食育の推進
 - 地域における食育の推進
 - 食文化の継承のための活動への支援

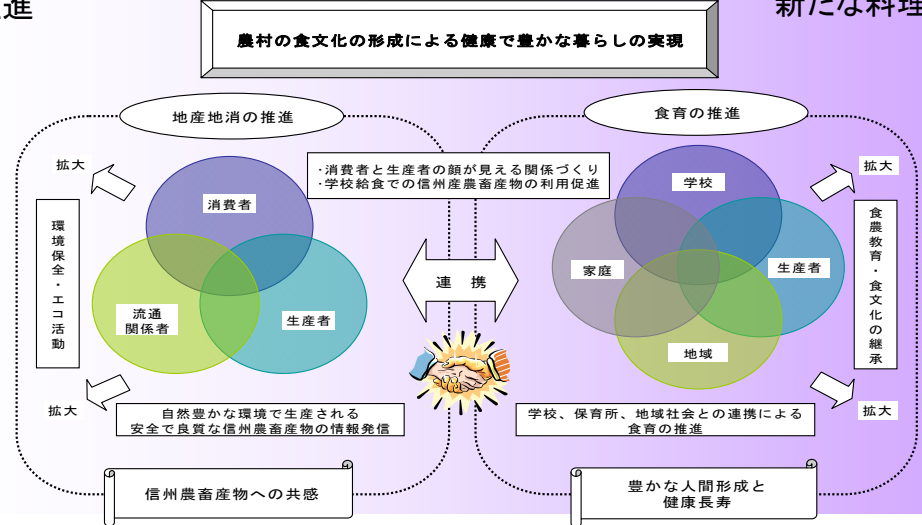
購入先の拡大による地産地消の推進

- 安全で安心な信州農畜産物の情報発信
- 生産者と消費者が身近に感じられる直売所の拡大を支援
- 地域食材をメニューとして提供する旅館・ホテル・飲食店等と農業者のマッチングを推進
- 市場機能を活かし、学校給食調理場、病院、社会福祉施設等への購入先の拡大を推進



食に関する多様な人々との連携

- 食育ボランティア等と連携し、学校教育活動における食育を推進
- NPOやJAと連携し、子どもを中心とした農業体験の機会の拡大を推進
- 農業者や栄養士と連携し、地域の食材活用した新たな料理方法を学ぶ機会の提供



施策の展開

施策の展開③

美しい農村の維持・活用

ア 農山村の多面的機能の維持と環境保全

- 農地や農業用水路等の保全管理の推進
- 中山間地域の継続的な農業生産活動の推進
- 野生鳥獣対策の推進

イ 農村資源の利活用の推進

- 農村資源を活用したエネルギー生産の普及と利用促進
- 小水力発電など農業水利施設等を活用した自然エネルギーの導入促進
- 農業系バイオマスの利活用の促進

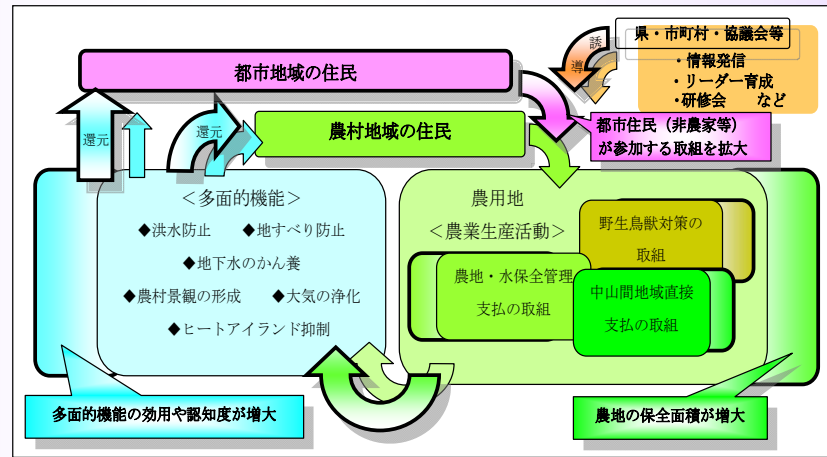
ウ 安全で快適な農村環境の確保

- 総合的な防災対策の推進
- ため池や地すべり防止施設等の現状把握調査の推進
- 集落を維持するための地域特性に応じた生活環境整備の推進
- 美しい農村景観や生態系保全への配慮

新たな視点・加速する視点

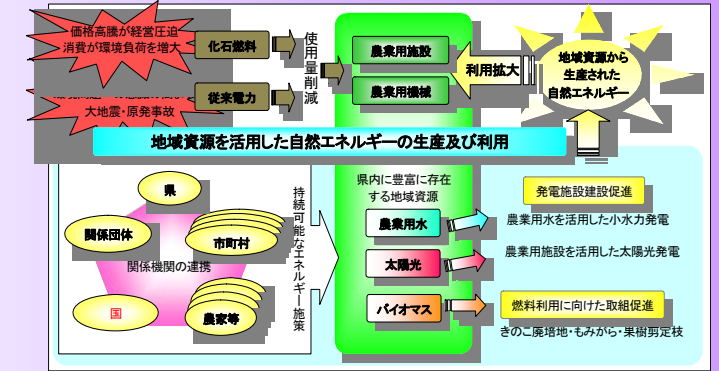
営農の継続と多面的機能の維持

- 地域ぐるみで行う農地・水・環境を守る地域の核となるリーダーを育成
- 中山間地の農業を守る集落営農組織の育成を支援
- 野生鳥獣被害防止対策を支援。自ら被害対策を実践できる体制づくりを支援



自然の活用と防災・減災

- 地域資源のエネルギー活用に向けた調査・研究を実施
- 地域資源の活用の有効性について普及・啓発を実施
- 農業用水を活用した小水力発電を本格稼働



- 老朽化したため池等の補強・改修と管理を支援
- ため池の危険度調査等を実施
- 大規模自然災害等に備えた農地防災対策を実施
- 市町村のハザードマップの作成を支援

重点的に取り組む事項（プロジェクト）

1 農業で夢をかなえるプロジェクト

新たな就農支援システムを構築し「日本一就農しやすい長野県」を実現するため、意欲的に就農者の誘致に取り組む市町村やJA等との連携を強化し、新たな情報発信の仕組みの構築と就農支援の仕組の充実に取り組む。

- 新たな情報発信の仕組みの構築と活用
 - ・インターネットを効果的に活用し、県、市町村、JA等の就農支援情報等を一元的に発信 等
- 県と市町村、JA等が連携した就農支援の仕組みの充実
 - ・市町村、団体等と連携・役割分担し、地域の各種支援制度や就農研修制度等を充実
 - ・新たな情報発信の仕組みの活用と合わせた就農相談、農業体験会の開催 等

[夢に挑戦する農業 施策の展開 1 関連]

2 環境にやさしい農業推進プロジェクト

「信州の環境にやさしい農産物」の生産拡大を図るため、信州の環境にやさしい農産物認証制度への取組を「点」から「面」へ拡大するとともに、環境にやさしい農業技術を実証・普及、農産物の販売促進に取り組む。

- 環境にやさしい農業技術集及び事例集の作成・配付
 - ・環境にやさしい農業技術や他県で開発された技術を取りまとめ、技術集を作成・配付 等
- 信州の環境にやさしい農産物認証制度の取組の面的な拡大
 - ・取組品目、実践組織の決定と削減目標の設定、実証ほの設置による技術の実証 等
- 認証農産物の販売支援

[夢に挑戦する農業 施策の展開 2 関連]

3 新たな産地を築く園芸品目振興プロジェクト

本県の基幹部門である園芸作物の競争力強化に向け、オリジナル品目・品種の栽培面積拡大や需要期の生産量拡大に取り組む産地の早期育成を図るため、作目ごと重点品目の種苗供給体制の整備や新たな栽培技術の指導などに取り組む。

- 果樹オリジナル品種早期産地化
 - ・苗木供給体制の構築と拠点産地における高品質・安定生産に向けた栽培技術の重点指導 等
- 需要に対応できるアスパラガス産地育成
 - ・受託育苗体制の仕組みづくりと施設化の推進 等
- トルコギキョウ秋出荷産地育成・強化
 - ・標高差を活かした県内出荷リレーの確立 等

[夢に挑戦する農業 施策の展開 2 関連]

4 おいしい信州ふード(風土)認知度向上プロジェクト

「おいしい信州ふード(風土)」の認知度を官民協働の取組により、加速的に向上させ、ブランドとしての地位の確立と消費・生産拡大を図る。

- 官民協働による取組の推進
 - ・「おいしい信州ふード(風土)」の認知度向上に向けた情報発信 等
- 『「おいしい信州ふード(風土)」が食べられるお店』の拡大
 - ・県内レストラン等の「登録」への誘導、情報発信、旅行商品の造成 等

[夢に挑戦する農業 施策の展開 3 関連]
[皆が暮らしたい農村 施策の展開 2 関連]

5 ふるさと農村元気プロジェクト

中山間地域等における農村のコミュニティの維持・強化を図るため、重点支援地区を設定し、地域の実態に即した支援を行い、モデルとすることで他地域への波及を促進する。

- 市町村等と連携した重点支援地区の設定と行動計画の作成支援
 - ・意欲的な県下 10 地区の集落を重点支援地区に設定
 - ・行動計画の作成や専門家との橋渡しを支援
- 地域の知恵と工夫を活かした取組への支援
 - ・集落営農組織等の育成への支援、地域の特色ある農作物の生産の促進 等
 - ・体験学習や修学旅行等の受入体制への支援、コミュニティビジネス創出、交流への支援 等

[皆が暮らしたい農村 施策の展開 1 関連]

6 小水力発電導入促進プロジェクト

市町村や関係団体と連携し、県内で約 1 万 kw の賦存するとされる農業用水による小水力発電の導入を加速的に進める。

- 自然エネルギー活用への理解醸成
 - ・小水力発電の啓発を図るための研修会の開催 等
- 導入可能性の調査と計画
 - ・発電適地に関する情報共有を図るためのデータベース作成 等
- 発電施設の建設
- 発電施設導入の促進のための国との調整

[皆が暮らしたい農村 施策の展開 3 関連]

第2期食と農業農村振興計画 達成指標（案）

1 夢に挑戦する農業

（1）夢ある農業を実践する経営体の育成

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠
1	経営を法人化した経営体の数	758 法人	900 法人	経営の継続性を備える法人農業経営体を育成するにあたり、企業の経営への発展を促進する認定農業者等の経営体の約1割の法人化をめざす
2	企業の農業経営体への発展を促進する経営体数	8,008 経営体	9,000 経営体	企業の農業経営体を育成する主な支援対象として、目標年度に認定農業者等9,000経営体の確保をめざす
3	担い手への農地利用集積率	42%	51%	認定農業者等担い手への農地の利用集積について、耕地面積の51%をめざす
4	40歳未満の新規就農者数（単年度）	190人	250人	高齢化により離農する認定農業者等の担い手をカバーするため年間250人の確保をめざす

番号欄のセルに色が付いた項目は、第2期振興計画で新たに達成指標に位置付けた項目

（2）自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠	
5	環境にやさしい米づくりの面積	1,228ha	1,820ha	信州の環境にやさしい農産物認証米、原産地呼称管理制度認定米の作付面積を現状の1.5倍に拡大する	
6	実需者ニーズの高い県オリジナル穀物新品種の普及面積	米	10ha	800ha	「キヌヒカリ」を「風さやか」に転換する
		麦 大豆 そば	311ha	950ha	加工適性の高い品種を現状の3倍にする 小麦：「ゆめかおり」、「ハナマンテン」 大豆：「すずほまれ」「すずろまん」 そば：「桔梗8号」
7	果樹オリジナル主要品種の栽培面積	1,190ha	2,320ha	市場評価の高いオリジナル品種等（ジュースト、ジュゴールド、秋映、ガバール、シャイマスカット、サンスイート）の栽培面積を現状の2倍に拡大する	
8	りんご新しい化栽培面積	67ha (H23)	500ha	収益性が高く省力的な栽培方法の導入を大幅に拡大する	
9	販売額20億円以上の野菜品目数	11品目	13品目	主力品目の露地薬物3品以外の品目について底上げを図ることで本県野菜生産の総合力を強化する	
10	国産品シェア1位の花き品目数	6品目	8品目	輸入を含めた厳しい競争下に置かれているなかで、全国シェア1位の品目を多数有する花き生産県として、実需者の信頼度を高める	
11	生産量全国1位のきのこ品目数	4品目	4品目	えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、なめこの生産量全国1位を維持する	
12	信州サーモン生産量	220t	375t	水産試験場の信州サーモン稚魚供給施設規模の最大値の稚魚を供給し、現状の7割増をめざす	
13	三倍体イワナ生産量	0t	30t	水産試験場において種苗を開発・生産し、養殖業者へ供給を行い生産を拡大する	
14	信州プレミアム牛肉の認定頭数	844頭	2,200頭	すぐれた産肉能力をもつ繁殖雌牛と受精卵移植技術の活用等により優良肥育素牛生産を拡大し、現状の2.5倍の認定頭数をめざす	

15	エコファーマーの認定組織数	126 組織	310 組織	面的な拡大を図るため組織体(JA 生産部会、直売所)の取組を進める
16	信州の環境にやさしい農産物認証面積	1,483ha	2,200ha	環境農業への取組レベル向上を図るため、現状面積の5割増をめざす
17	生産者GAPに取組むJA生産部会・直売所の率	12.5% (124件)	36.6% (361件)	JAグループの生産部会及び農産物直売所(有人の常設形態)のGAPへの取組の大幅(3倍)な拡大をめざす
18	農業用水の安定供給及び排水機能が確保される農地面積	9,500ha (H18~H22)	20,000ha (H25~H29)	基幹水利施設の全体受益面積 51,000ha を引き続き確保するため、期間内に補修・更新を行う施設の受益面積
19	遊休農地の再生・活用面積	393ha/年	600ha/年	過去5年のうち単年度で再生できた遊休農地面積の最大値とする

(3) 信州ブランドの確立とマーケットの創出

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠
20	「おいしい信州ふーど(風土)」の認知度	県内 24.3 % 県外 -	県内 75% 県外 25%	「おいしい信州ふーど(風土)」のをブランド力の向上を計る数値として、県内の3/4、県外の1/4の住民の認知をめざす 【県内】県民モニターアンケート 【県外】インターネット等による調査
21	県が主催する商談会における農業者等と食品産業等との成約件数	-	250 件	県主催の農畜産物商談会等で、毎年50件の商談成立をめざす
22	六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	-	94 件	年間10件以上の認定をめざす H24は5件(H24.6末時点で39件)

2 皆が暮らしたい農村

(1) 農村コミュニティの維持・構築

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠
23	都市農村交流人口	546,544 人	600,000 人	県内を訪れる都市住民に農業体験などを提供し、約1割の増加をめざす

(2) 地産地消と食に対する理解・活動の促進

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠
24	農産物直売所数	814 店	840 店	第1期での増加目標790か所→800か所(+10店舗)の倍増をめざす
25	食育ボランティア数	15,770 人	20,000 人	食育推進の実践活動体を増加させることにより、県民運動としての展開を推進する

(3) 美しい農村の維持・活用

番号	指標項目	基準年 (平成22年)	目標年 (平成29年)	設定根拠
26	地域ぐるみで取り組む農地・水・環境の保全活動面積	22,484ha	25,000ha	農地・水保全管理支払事業及び中山間地域農業直接支払事業の推進により、保全されている農地等の面積の1割増をめざす H22: 農地・水: 12,646ha、中山間: 9,838ha H29: 農地・水: 15,000ha、中山間: 10,000ha
27	農業用水を活用した小水力発電の容量	220kw	※検討中	目標年までに整備される県内の農業用水による小水力発電の設備容量 ※環境部で策定中の「長野県環境エネルギー戦略」の目標値を踏まえ設定する
28	農地等の安全確保面積	1,650ha	1,800ha	計画期間(H25~H29)内に対策工事の完了をめざす危険区域の保全面積 H22: ため池: 100ha、地すべり: 1,550ha H29: ため池: 200ha、地すべり: 1,600ha

9 長野地域の発展方向

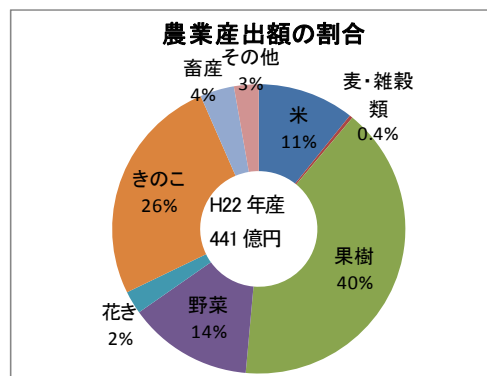
長野市・須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・
高山村・信濃町・飯綱町・小川村

～ 地域キャッチフレーズ〇〇〇〇 ～

地域農業・農村の概要

農業・農村の特色

- 長野地域は、善光寺平と周辺の中山間地域からなり、北部の豪雪地帯から南部の少雨地帯まで多様な気候と地形を活かし、果樹、きのこ、野菜、米等、バラエティに富んだ農業生産が行われています。
- 特に果樹は多品目が生産されており、中でもりんご、ぶどう、ももは栽培面積、生産量とも県下第1位を誇ります。
- 全国的に知られているそば、おやき、おしぼりうどん等の郷土食やねずみ大根、小布施丸なす等の伝統野菜を活かした地域おこしへの取組が各地で見られ、また、観光農園や農業体験等、観光と連携した農業の展開も進められています。
- 農産物価格の低迷、担い手の減少や農業従事者の高齢化により、生産力が低下する中、特に樹園地の円滑な継承が課題となっています。
- 中山間地域においては、担い手の高齢化に加え、遊休農地や野生鳥獣による被害の増加により、農家の生産意欲や集落の活力が減退しつつあります。
- 消費者の食の安全・安心、環境、食育に対する意識が高まってきており、環境にやさしい農業への取組や農山村の持つ多面的機能の維持、食文化継承のための活動への支援が求められています。



めざす将来ビジョン

- 経営体自らの創意工夫により、収益性の高い経営を実践しています。意欲と熱意のある青年就農者や定年帰農者、女性農業者等、多様な担い手が夢を持って生き生きと活躍しています。また、集落営農組織や企業の経営体が担い手として活躍し、地域農業が持続的に展開されています。
- 県下有数の果樹産地として消費者ニーズの高い県オリジナル品種等の生産拡大やりんご新しい化栽培が普及するとともに、樹園地の円滑な継承システムの構築が進み、持続的で生産性の高い果樹産地が形成されています。
- 産出額第2位のきのこについては、栽培技術の向上や需要に見合った生産により、安定した経営が営まれています。
- 安全・安心、環境にやさしい農産物の生産が拡大し、長野地域の農畜産物が県内外に流通し、消費者に信頼される産地が形成されています。
- 中山間地域では、野生鳥獣被害防止対策等の集落ぐるみの取組が活発になり、農地が有効に利用されています。また、自然景観や食文化等の農村資源が継承され、都市部からも癒しを求め多くの人々が訪れています。
- 地元農産物を利用した加工品の開発・販売が拡大するとともに、農商工連携や6次産業化による新たな農村ビジネスの展開等、豊かな農村が実現しています。
- 老朽化した農業用水利施設やかん水施設等の計画的な更新整備が行われ、農村地域における多面的機能が十分に発揮されています。

重点的な取組方向

重点戦略1 地域の特色を活かした多様な経営体の確保・育成

背景

平成19年度からの5年間に120名が新規に就農しましたが、総じて担い手不足の状況にあります。特に農業産出額の4割を占める果樹栽培においては、新規参入者や定年帰農者、女性農業者等、多様な担い手の確保による樹園地の維持や次代への円滑な継承が求められています。また、担い手の高齢化が進む中、繁忙期における労働力確保が課題となっています。

目標

指標項目

- 新規就農者数(単年度、40歳未満)
- 新規就農者のうち果樹栽培者数
- 農作業支援者数(延人数)

現状 (H22)

28人
21人
2,278人

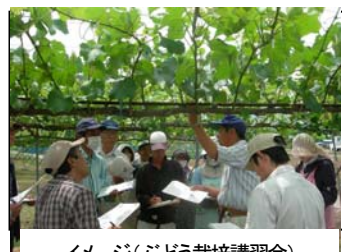


目標 (H29)

30人
24人
3,000人

推進方策

- 県や市町村、農業団体等が連携した支援体制づくり
- 新規就農者の確保に向けた取組の充実
- 新規就農者や定年帰農者等への技術習得や経営管理能力の向上に向けた支援
- 人・農地プランの実現やリース方式等による樹園地を継承する仕組みづくりに向けた支援
- 農作業支援者の確保及び技術の向上に向けた支援



イメージ(ぶどう栽培講習会)

重点戦略2 未来に挑戦し続ける競争力の高い果樹産地づくり

背景

長野地域のりんご、ぶどう、ももは県下第1位の生産量を誇りますが、販売価格の低迷や生産資材の価格上昇等、経営環境が悪化しています。このため、消費者ニーズの高い品目・品種への転換や省力的で生産性の高いりんご新しい化栽培への取組等、競争力の高い果樹産地への変革が求められています。

目標

指標項目

- 県オリジナル主要品種栽培面積
- りんご新しい化栽培面積
- 無核(種なし)ぶどう栽培面積
- 畑地かんがい施設の整備面積(期間内整備量)

現状 (H22)

706ha
18.5ha
304ha
308ha



目標 (H29)

1,070ha
100ha
620ha
403ha

推進方策

- 消費者ニーズの高い品目・品種への転換に係る支援
- りんご新しい化栽培に必要な苗木の確保支援
- ぶどうの高品質生産のための施設化の推進や、消費者ニーズに対応した無核化栽培の普及
- ももや特産果樹(あんず、プルーン等)の高品質・安定生産に向けた取組への支援
- 効率的な果樹経営に向けた生産基盤の整備(畑地かんがい施設等)への支援



イメージ(りんご「シナノゴールド」)

重点戦略3 恵まれた立地条件を活かした特色ある産地づくり

背景

野菜、きのこ、花き、畜産等、地域の特性を巧みに活かした生産が行われ、アスパラガス、栽培きのこ、トルコギキョウは県下有数の産地となっていますが、近年の産地間競争の激化等により経営環境は厳しさを増しています。このため、一層の高品質化や低コスト化の推進、作期の拡大が求められています。また、畜産は、乳用牛に受精卵を移植し、黒毛和種子牛を生産する取組が進んでいます。

目標

指標項目

- アスパラガス夏秋どり比率
- トルコギキョウ秋出荷本数
- 受精卵移植による黒毛和種子牛の生産頭数

現状 (H22)

24%
586 千本
70 頭



目標 (H29)

30%
660 千本
100 頭

推進
方
策

- アスパラガスの茎枯病対策の徹底と夏秋どり作型の拡大に対する支援
- きのこの新品種・新技術の導入と経営安定に向けた支援
- トルコギキョウの秋出荷作型の拡大に対する支援
- 実需者ニーズに対応した高品質な果菜類の生産拡大に対する支援
- 受精卵移植による黒毛和種子牛の生産拡大に対する支援



イメージ(トルコギキョウ・コサーージュシリーズの新品)

重点戦略4 地域資源の活用と新たな付加価値の創出による魅力ある農業農村づくり

背景

近年、長野地域のぶどうを原料としたワインは、国内外のコンクールで入賞するなど高い評価を得ており、さらにワイナリー事業の新設の動きもあります。また、農業者による6次産業化への取組や伝統野菜を核とした地域の活性化に向けた取組が見られます。

目標

指標項目

- ワイン用ぶどう栽培面積
- 商談会等における成約件数
- 信州の伝統野菜栽培面積

現状 (H22)

29ha
0 件
5.8ha



目標 (H29)

40ha
25 件
8.0ha

推進
方
策

- 遊休農地等へのワイン用ぶどう等の作付けを推進するため、基盤整備等への支援
- 自ら販路拡大や加工品開発等、経営強化を目指す農業者の取組への支援
- 需要に応じた伝統野菜の生産安定に向けた取組への支援
- 「おいしい信州ふーど(風土)」ネット等による消費者等への情報発信



イメージ(商談会)

重点戦略5 中山間地域等の特性を活かした元気な農業農村づくり

背景

中山間地域では、農業者の高齢化が進み、遊休農地や野生鳥獣による被害が増加し、地域の活力が低下しつつあります。

一方、都市住民の田舎暮らしやふるさと志向が高まり、農村を訪れる観光客も多く見られます。さらに新幹線が平成26年度中に金沢まで延伸となり、交流人口の増加とともに観光と連携した農業農村振興が期待されます。

目標

指標項目

- 遊休農地の解消面積 (H19～累計)
- そば栽培面積
- 都市農村交流人口

現状 (H22)

93ha
391ha
39,060人



目標 (H29)

415ha
482ha
48,500人

推進方策

- そば、うめ等による遊休農地の解消に向けた取組への支援
- 地域の特徴的な品目の振興や集落ぐるみの野生鳥獣による被害防止活動に対する支援
- 観光や食文化等農村資源を活用した生産者と消費者を結びつける都市農村交流の促進
- 広域営農団地農道整備による交通アクセスの改善



イメージ(遊休農地での農作業を通じた都市農村交流)

重点戦略6 環境との調和を目指した農村機能の充実

背景

消費者の食の安全・安心や地球温暖化、生物多様性等の環境問題に対する関心が高まっており、環境と調和した生産方式の導入や農業生産活動を通じた集落機能の維持、農山村の多面的機能の発揮や再生可能エネルギーへの取組が求められています。

また、農村においても自然災害への危機管理意識が高まってきており、適切な防災対策が求められています。

目標

指標項目

- 農地・水保全管理活動面積
- 環境保全型農業直接支援対策面積
- 農業用水を活用した小水力発電の容量 (検討中)

現状 (H22)

890ha
16.0ha (H23)
6kW



目標 (H29)

1,069ha
32.0ha
36kW

推進方策

- 地域ぐるみで取り組む農地・水・環境の保全活動に対する支援
- 環境にやさしい農業に取り組む農業者(組織)への技術習得支援や消費者の理解促進のための情報発信等
- 水路等の農業用施設を利用した小水力発電施設の設置に向けた取組への支援
- 地すべり防止区域の適切な管理



イメージ(地域ぐるみで行う環境保全活動)

長野地域の発展方向 重点的な取組方向に係る指標項目及び目標設定の考え方

	指標項目	平成22年 (基準年)	平成29年 (目標年)	目標設定の考え方
重点戦略1	新規就農者数(単年度、40歳未満)(人)	28	30	基準年(H22年)の耕作面積を維持するための人数を算出。
	新規就農者数のうち果樹経営者数(人)	21	24	新規就農者が経営安定しやすい果樹での就農8割を目指す。
	農作業支援者数(延人数)	2,278	3,000	「農作業労力補完取組事例調査結果」の数値とする。毎年、100人の増で、基準年(H22年)の約3割増を目指す。
重点戦略2	果樹の県オリジナル品種の培面積(ha)	706	1,070	市場評価の高いりんご「秋映」「シナノスイート」「シナノゴールド」「シナノドルチェ」、ぶどう「ナガノパープル」、なし「南水」、もも「なつっこ」の栽培面積を現状の約1.5倍に拡大する。
	りんご新しい化栽培面積(ha)	18.5	100.0	フェザー苗木の生産見込み本数から100haを目指す。
	無核(種なし)ぶどうの栽培面積(ha)	304	620	市場評価の高い無核ぶどう(無核「巨峰」「ピオーネ」「ナガノパープル」「シャインマスカット」)の栽培面積を現状の約2倍に拡大する。
	畑地かんがい施設の整備面積【期間内整備量】(ha)	308	403	農業農村整備事業管理計画書に基づき個別積上げによる。
重点戦略3	アスパラガス夏秋どり比率(%)	24	30	7月～10月出荷について、年1%の増加を目指す。
	トルコギキョウ秋出荷作型の拡大(千本)	286	400	10～11月出荷について、年2万本の増加を目指す。
	受精卵移植による黒毛和種子牛の生産頭数(頭)	70	100	・生産頭数を年5頭増頭する(移植頭数を年11頭増加)。
重点戦略4	ワイン用ぶどうの栽培面積(ha)	29	40	年1～2haの面積増を目指す。
	商談会等における成約件数(件)	0	25	地方事務所、農改センターが主催した商談会等で農業者等と食品事業者等との商談成立件数(累計)で、毎年5件を目指す。
	信州の伝統野菜栽培面積(ha)	5.8	8.0	伝承地栽培認定品目について、現状維持から若干の増を見込む。
重点戦略5	遊休農地の解消面積(H19～累計)(ha)	93	415	H18～H23までの実績トレンドを参考に、年40haずつ解消するものと想定。
	そば栽培面積(ha)	391	482	H17～H22までの実績トレンドを参考に、年13haずつ増加するものと想定。
	都市農村交流人口(人)	39,060	48,500	H17～H23までの実績トレンド参考に、年間約1300人ずつ増、約2割増加を目指す。
重点戦略6	農地・水保全管理活動面積(ha)	890	1,069	実績トレンドを参考に年13haずつ増加するものと想定。
	環境保全型農業直接支援対策面積(ha)	16.0 (H23実績)	32	H23実績の2倍を目指す。
	【検討中】 農業用水を利用した小水力発電の容量(kW)	6	36	目標年までに整備される長野地区の農業用水による小水力発電の整備容量 ※左の目標値については、環境部で策定中の「長野県環境エネルギー戦略」の目標値を踏まえて再検討の予定

長野地域の発展方向 重点的な取組方向に係る説明資料

重点戦略区分	推進方策	具体的な取組内容
(重点戦略1) 地域の特性を活かした多様な経営体の確保・育成	○県や市町村、農業団体等が連携した支援体制づくり	○地域農業再生協議会の活動の充実 ○就農受入れ体制の充実、相談活動、研修等の実施
	○新規就農者の確保に向けた取組の充実	○普及センターにおける各種講座の開設等 ○人・農地プランの策定・実現に向けた取組 ○青年就農者給付金による支援 ○住居及び住居情報の整備・提供 ○就農定着への支援
	○新規就農者や定年帰農者等への技術習得や経営管理能力の向上に向けた支援	○普及センター、JAによる各種講座の開設、個別相談、指導等
	○人・農地プランの実現やリース方式等による樹園地を継承する仕組みづくりに向けた支援	○関係機関による検討会等の開催 ○長野地域支援チームによる人・農地プラン作成及び実現のための支援 ○リース樹園地の整備（県単強い園芸産地育成事業、果樹経営支援対策事業） ○樹園地の経営受託を実施する団体に対する助成（県単強い園芸産地育成事業） ○各産地に見合った樹園地継承の取組への支援
	○農作業支援者の確保及び技術の向上に向けた支援	○市町村、JAでの仕組みづくり ○普及センター、JAによる技術習得講習会等の開催 ○先進事例調査
(重点戦略2) 未来に挑戦し続ける競争力の高い果樹産地づくり	○消費者ニーズの高い品目・品種への転換に係る支援	○果樹経営支援対策事業（改植） ○県単強い園芸産地育成事業（モデルほの設置） ○市町村・JA単独事業の取組（苗木の購入補助等） ○栽培技術向上に向けた支援（研修会等）
	○りんご新しい化栽培に必要な苗木の確保支援	○りんごフェザー苗供給体制構築事業 ・予約生産に向けた種苗業者とJAの調整 ・種苗業者の生産状況管理と技術指導 ・わい化台木生産の分業化の取組支援 ○新しい化栽培導入生産者の技術向上に向けた支援
	○ぶどうの高品質生産のための施設化の推進や、消費者ニーズに対応した無核化栽培の普及	○県単、強い園芸産地育成事業（雨除け施設導入） ○栽培技術の高位平準化のための技術指導（県、JA等） ○短梢整枝せん定技術の普及
	○ももや特産果樹（あんず、プルーン等）の高品質・安定生産に向けた取組への支援	○もも ・品種のシリーズ化（特に中・極晩生種の比率を上げる） ○あんず・プルーン ・県オリジナル品種の導入（あんず「信州サワー」、プルーン「サマーキュート」「オータムクイーン」）

重点戦略区分	推進方策	具体的な取組内容
	○効率的な果樹経営に向けた生産基盤の整備（畑地かんがい施設等）への支援	○水管理制御設備、揚水ポンプ設備、管路その他畑地かんがい施設の更新（県営かんがい排水事業、県営ため池等整備事業、団体営かんがい排水事業ほか）
（重点戦略3） 恵まれた立地条件を活かした特色ある産地づくり	○アスパラガスの茎枯病対策の徹底と夏秋どり作型の拡大に対する支援	○県単強い園芸産地育成事業等による雨除け施設の導入 ○総合的な茎枯病対策の徹底に向けた取組支援 ○夏秋どりに適した品種選定と普及導入促進
	○きのこの新品種・新技術の導入と経営安定に向けた支援	○技術、財務、労務改善のための支援（地域支援チーム：県、JA） ○えのきたけ高温域培養適性品種などの導入 ○LED照明の導入
	○トルコギキョウの秋出荷作型の拡大に対する支援	○適品種の選定 ○開花調整技術（電照、加温等）の導入 ○2回切り作型の技術の普及 ○県単強い園芸産地育成事業等によるモデルほ設置
	○実需者ニーズに対応した高品質な果菜類の生産拡大に対する支援	○トマト、キュウリ等の導入推進 ○県単強い園芸産地育成事業等による雨除け施設等の導入 ○環境に配慮した病害虫防除の普及 ・カラーピーマンにおける天敵利用技術の普及
	○受精卵移植による黒毛和種子牛の生産拡大に対する支援	○受精卵移植農家の拡大に向けた情報発信 ○受精卵移植技術者の養成、レベルアップ
（重点戦略4） 地域資源を活用と新たな付加価値の創出による魅力ある農業農村づくり	○遊休農地等へのワイン用ぶどう等の作付けを推進するため、基盤整備等への支援	○市町村、ワインメーカー等との連携 ○基盤整備への支援（地域自主戦略交付金ほか）
	○自ら販路拡大や加工品開発等、経営強化を目指す農業者の取組への支援	○県等による商談会の開催等、販路拡大機会の提供 ○農業者への研修会等の開催
	○需要に応じた伝統野菜の生産安定に向けた取組への支援	○安定栽培のための技術講習会等の開催（県、JA等） ○加工品開発への支援 ○販路拡大のための支援（商談会の開催等）
	○「おいしい信州ふード（風土）」ネット等による消費者等への情報発信	○県ホームページ「おいしい信州ふード（風土）ネット」等による情報発信○ ○市町村、JA等のホームページによる情報発信
（重点戦略5） 中山間地域等の特性を活かした元気な農業農村づくり	○そば、うめ等による遊休農地の解消に向けた取組への支援	○耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の活用 ○そば ・地域発元気づくり支援金の活用（製粉機導入、イベント開催等） ・戸別所得補償制度の活用 ・地元そば店・宿泊施設での利用推進

重点戦略区分	推進方策	具体的な取組内容
		<ul style="list-style-type: none"> ○うめ <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発による地域特産品として安定生産 ・実需者ニーズに対応した選果機の整備（国庫補助事業活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特徴的な品目の振興や集落ぐるみの野生鳥獣による被害防止活動に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○山菜、軽量野菜等の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・直売所への出荷や収穫体験のできる農園づくりを支援 ・加工等契約栽培の試行 ○栽培講習会の開催、栽培技術指導 ○長野地域野生鳥獣被害対策チームによる総合的な支援 ○防護柵の計画的な導入推進（補助事業導入等） ○既設置柵の管理体制づくり支援
	<ul style="list-style-type: none"> ○観光や食文化等農村資源を活用した生産者と消費者を結びつける都市農村交流の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○農家民泊の受入体制整備支援 ○実需者との産地交流会開催支援
	<ul style="list-style-type: none"> ○広域営農団地農道整備による交通アクセスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○上水内北部地区広域営農団地農道の整備～豊野幹線の開通による全線開通をめざす（県営農道整備事業）
（重点戦略6） 環境との調和を目指した農村機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ぐるみで取り組む農地・水・環境保全活動に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○農地・水・環境の保全活動への支援（農地・水保全管理支払事業、中山間地域農業直接支払事業）
	<ul style="list-style-type: none"> ○環境にやさしい農業に取り組む農業者（組織）への技術習得支援や消費者の理解促進のための情報発信等 	<ul style="list-style-type: none"> ○普及センター、J Aにおける各種講座の開設等 ○ホームページによる情報発信
	<ul style="list-style-type: none"> ○水路等の農業用施設を利用した小水力発電施設の設置に向けた取組への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○水路等の施設管理者に対する啓発（農業用水活用小水力発電導入促進事業） ○発電可能性の把握（農業用水路活用小水力発電適地調査事業） ○発電施設整備への支援、モデル事業の実施（地域自主戦略交付金ほか）
	<ul style="list-style-type: none"> ○地すべり防止区域の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な監視（棚田地域保全施設管理事業） ○地すべり対策の実施（地すべり対策事業、県単農地地すべり対策事業）